

オンラインタウンミーティング

～新型コロナウイルス感染症による

臨時休校を経験して感じたこと～



- 実施報告書 -

概要

日時・場所

令和2年6月25日(木) 午後1時30分から午後3時
小牧市役所601会議室、各自宅等

参加者

市内中学校の保護者 9名（全9校から1名ずつ参加）

事務局

広報広聴課

市長あいさつ

本日は大変お忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染防止のため、今回はウェブを通して開催させていただく事となりました。

状況については皆さんもご承知いただいていると思いますが、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るう中で、小牧市においても大変大きな影響を受けています。

非常事態宣言が解除されて、学校や経済活動が再開されましたが、まだまだ感染の不安が残っている状況に変わりはなく、今後感染の再拡大も非常に懸念されています。

皆さんに大変ご負担をお掛けしている状況については申し訳なく思いますが、市民の皆さんの命を守る、感染の拡大を防いでいくことが最優先だと判断してこれまで様々な対策を講じてまいりました。今後も皆さんのご理解を頂きながら、新型コロナウイルスに対応した行政運営をしっかりと進めていきたいと思っております。

小中学校につきましては、約3か月にわたって休校という措置をとりました。子どもたちにも大変大きな負担がかかったと思えます。

ようやく学校が再開されて喜んでいる子ども達も多いかと思いますが、一方で保護者の方々を含め、学習面の遅れ、部活動や生活面、また、精神的な面も含めて、ご不安に思われている方々も大勢みえると思えます。

本日は、そうした点について、皆さんの率直な声をお伺いしながら、市としてできる限りそれに対応できるよう、努力をしていければと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂きたいと思えます。

本日はよろしくお願ひします。

意見交換

皆さんから頂いたご質問内容を5つのテーマに分け、テーマごとにご発言いただいた後、市長、教育長から回答しました。

感染症対策について

- 感染が広がらないよう、学校としてどのような対策を行っているか。また、これから先どのような対策を考えているか。
- 今後、小中学生から感染者が出た場合、地区や個人の行動記録の公開は可能か。

(市長)

常に「密閉」「密集」「密接」の3つの条件が同時に重なる状況を避け、手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染防止対策については学校現場で徹底していただくようお願いしております。

具体的な対策についてですが、授業につきましては、教室内の席の間隔を広めにとって、グループ学習を控え、児童生徒が向き合って会話をする場面を作らないよう心掛けていただいています。

休み時間については、児童生徒が密接な状況にならないように声がけを先生から行っていただいています。

給食については、手洗いを徹底するとともに、普段であれば机を向かい合わせにして皆でお話しながら楽しく給食を食べるところですが、こういった状況ですので、机を向かい合わせにしないようにして、会話を控えてもらうように、児童生徒にお願いをしています。

換気につきましては、1日を通して教室のドアや窓を常に少し開けた状態でエアコンと扇風機を活用し、暑さ対策をしながら1時間に1回は、窓を広く開け教室内の換気に努めています。

消毒、清掃についてですが、いつもは児童生徒の皆さんに教室や廊下、トイレについても清掃をしてもらっていますが、特にトイレについては感染リスクが高いということで当面の間は教職員や用務員が2限目後の放課、昼休み後、下校後の1日3回の消毒作業や児童生徒が下校した後のトイレ清掃を行い感染防止に努めています。

また、消毒作業等にかかる教職員の負担軽減のために、6月議会の補正で25校、一人ずつ新たに用務員を増員するための予算を確保させていただきました。

どうしても学校で感染リスクをゼロにするというのは難しいと思っています。現在の学校現場の状況の中で、できる限りの対策を取っていく事が重要ですので、現場の負担はありますが非常事態ですのでしっかり対応していただこうと思っています。

児童生徒の皆さん、あるいは保護者の皆さんにもご負担をお掛けしますが、マスクの持参や家庭でも感染防止対策をしっかりやっていただくといったところでご協力いただければと思います。

次に、小中学生から感染者が出た場合の地区、個人の行動記録の公開に関するご質問についてです。

まず、市内で新型コロナウイルス感染症が発生した場合の情報の流れを

お話をさせていただきます。

個人の方でPCR検査の結果が陽性であった場合、医療機関から愛知県保健医療局へ情報が上がり、この段階で副知事から該当市町の首長、感染者が小牧市民であった場合は、私の携帯電話へ市内在住者に感染者が発生した旨の連絡が入ることになっています。

その後、保健医療局から各保健所へ連絡が入り、保健所が患者ご本人への聞き取りを行い、行動履歴から濃厚感染者を特定し、待機要請・経過観察など必要な措置が取られます。

濃厚感染者の特定や隔離・待機については、県の保健所において適切に指示がなされることになっています。

では市はどうかといいますと、小牧市内で陽性の方が確認されたことは分かりますが、基本的には県の発表の内容以上の情報は入ってこないことになっています。

このことについては県の責任において適切に対応されていることになっているため、何歳代の男性か女性か、どういう状況で感染が確認されたかということについて情報提供がありますが、どこの地域で出て、濃厚接触者が何人いるかなどの詳細な情報は、残念ながら市の方で把握ができません。

以上が、小中学生を含めて、市内で感染者が確認された場合の手順になっております。

そのため、市として限られた情報の中で何ができるか考えなければいけません。

児童生徒または教職員の感染者が発生した場合は、学校内における活動の態様、接触者の多寡、感染経路の明否などを総合的に考慮して、県衛生部局に相談したうえで、校内の消毒実施日を含め2週間程度の臨時休校の判断をしていきます。

学習状況について

- 休校中の約3ヶ月の授業の遅れについて、夏休みの短縮はあるとは思いますが、どのようにカバーしていくのか

(教育長)

休校期間中にどのように学習補償を行うかについては、教育委員会の中でも相当協議を行ってきました。

まず初めに、休校期間が何日になるのか、その間の教科ごとの学習内容はどのようなものかを確認して協議を進めてきました。

3月2日から春休みまでの休校期間は教科書の内容が1年の総まとめの単元がほとんどでありましたので、これは新年度の学習内容の中で補填をしていきたいと考えました。

ところが、臨時休校の期間がさらに2か月延び、新たに見直しをしていくと、学年によって違いはありますが、小学校については150時間から175時間、中学校について175時間程度が不足するということが分かってきました。

その後、学校再開後に新たな授業コマ数を確保し、市内小中学校の全ての学年において、今年度の学習内容を今年度中に修了させるためにどうしたら良いかということを考えてまいりました。

その結果といたしましては、夏休み期間中に授業日を13日間設定し、1コマあたりの授業時間を短縮して約65コマを確保します。

2学期以降も1コマあたりの授業時間を短縮して、1日あたりの授業コマ数を最大7コマに拡大して約75コマを確保いたします。

なお、それでも不足する分は、運動会や体育大会、文化祭等の学校行事の内容を見直し、準備時間を短縮してコマ数を確保するということを考えています。

また、15分ある朝学習時間を、授業時間として活用していきます。

休校期間中につきましては、各家庭に学習課題プリントを配らせていただきましたが、3月中のプリントについては復習を中心としたものをお配りしました。4月以降については予習等ができるよう、ご家庭でお子さんが勉強できるよう、学習の手引きのようなものをお配りさせていただき、家庭学習の充実に努めてまいりました。

オンライン学習について

- もし第2波が来て、また休校が続くような事態になった場合、直ぐにオンライン授業や配信が出来る環境は進めているか
- 先進国はいち早くオンライン上での授業や先生とのミーティングをスタートさせたが、日本はかなり遅れをとっている。「日本の教育は大丈夫なのか？」と不安になるが、この状況をどう思うか

(市長)

小牧市もこれまで、オンラインということのみならず、1人1台タブレット端末でわかりやすい授業、そして、学習の理解を助ける、あるいは宿題、予習・復習、授業との連携など、学校におけるICTの利活用について検討してまいりました。

小牧市においては、このICT機器の充実という意味では、全国的に見ても非常に力を入れて進めてきました。学校でのハード面の整備、授業におけるグループ学習、あるいは調べもの学習などでの活用といったことについても積極的に取り組んできました。

そこからさらに一步踏み込んでいくと、やはり1人1台は必要だよねという議論になってくるのですが、これには費用が何億円もかかり、機器の更新費等についても、毎年かかってくる。

これでは市単独ではなかなか難しいということで、こういったことを進めていくべきだと考えている全国の首長の皆さんと勉強会などをつくり、国に対しても、特に予算をきちんとつけるよう強く要望をしてまいりました。こういった活動を行っている中で、新型コロナウイルス感染症という状況がやってきました。

市としては、プリントを配付する、自宅にネット環境がある方については、デジタル教材を活用していただくなど、できる限りの対応をしてまいりました。

しかしながら、新型コロナウイルスについては、治療法が確立されないと、なかなか終息が見えないという中で、この1年2年、場合によってはそれ以上、こういった状況が続いていくということも危惧をされていますので、今すぐ対応を進めなければいけないだろうという判断をいたしまして、この6月議会に全小中学生にタブレットPCを配備していこうという判断をいたしました。

国も予算付けについて、対応をするということになり、市としても何とか進めていけるのではないかという状況になってきていると思っています。

この6月議会で児童生徒の1人1台端末予算を確保いたしましたので、現在、プロポーザル方式で調達先、あるいは調達物品の選定など準備を進めています。

複数のメーカーから、タブレット端末は全体的に品薄であると聞いておりますが、端末の調達をできる限り早く進め、何とか10月中に導入でき

るようにしていきたいと市としては考えております。

また、今後、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波という事態になった折には、残念ながら自宅待機、休校措置ということを取らざるを得ないだろうというように予想しますが、この新たに配備をするタブレットPCをご自宅のほうにお持ち帰りをいただいて、教材の解説の動画だとか課題などについて利用ができるようにしていきたいというように思っています。

ただ、学校と家庭を結んだいわゆるオンライン授業については、早期に実現をしていかなければいけないとは思っていますが、実現に向けては、それぞれのご家庭のインターネット環境はもとより、学校側についても環境の整備を必要としているという状況にあります。

端末やネットワークの検証など十分な事前準備が必要であると報告を受けておりますので、残念ながら今すぐにオンライン授業というところまでは見通しが持てない状況でありますので、これについても早期に対応できるように教育委員会と連携をして進めていきたいと思っております。

(教育長)

令和元年9月に、小学校2校、中学校2校のモデル校に3クラスに1クラス分程度のタブレット端末を導入しました。

そのタブレット端末の使い方ですが、例えば、児童生徒が出された課題に対してタブレット端末に意見を書き込み、グループで見せ合いながら意見をまとめたり、グループでまとめた内容を教室の大型スクリーンや他の児童生徒のタブレット端末に映し出して、クラス全員で共有しながら発表や意見交換をしたりする場面が見られます。

また、体育の授業や部活動では、タブレット端末のカメラ機能を活用して、自分や友だちが運動する姿をその場で録画・再生し、自分の動きを確認したり、グループで助言し合ったりする場面が見られます。

続きまして、タブレットの導入効果につきましては、昨年10月に実施したモデル校の児童生徒を対象としたアンケートにおいて、「コンピュータやタブレットを使った授業はわかりやすい」と回答した児童生徒が79%、また、「コンピュータやタブレットを使った授業では、集中して取り組むことができる」と回答した児童生徒が87%であることから、タブレットを効果的に活用することにより、児童生徒が様々な課題に関心を持って、主体的に学ぶことにつながると期待しています。

次に、先進国に比べて日本はオンライン授業などの対応が遅れているのではないかというご質問についてです。

OECD（経済協力開発機構）の「生徒の学習到達度調査」、いわゆるPISAという学習調査があるのですが、その中のICT活用調査によりますと、「学校外での平日のデジタル機器の利用状況」においては、コンピュータを使って宿題をしたりだとか調べものをしたりする割合は、日本の子どもたちは低い。一方で、ネットでのチャットだとかゲームする割合はOECD平均を大きく上回っており、日本の子どもたちは、やはり学習にICTを活用していない傾向がわかってきたところでもあります。

併せて、日本の学校、ICT環境の整備は事実遅れておりまして、自治体間の格差の大きいことが課題であると言われていたため、国は、令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務であるとの考えから、全児童生徒1人1台端末環境の整備を目指す、いわゆるGIGAスクール構想を昨年12月に示したところです。

このような中で、新型コロナウイルス感染症による全国的な臨時休校となってしまう、本市では、家庭で利用できるデジタルドリルや学習プリント、教材解説動画などの配信など家庭学習教材を提供し、その対応に力を注いできたところです。

また、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えて、家庭でのオンライン学習環境整備を早期に実現するため、児童生徒のICT環境について、1人1台の端末を今年度早期に整備することとして、この6月議会で予算を計上させていただきました。

部活動・学校行事について

- 部活動の再開と、3年生の引退に対してできるだけ心に区切りがつく事をできないか
- 各行事の制限の今後

（市長）

部活動も学校の行事についても、それぞれ非常に大切だと思っております。

新型コロナウイルス感染症が急激に広がる中で、全国的にいろいろな対応がなされましたが、やはり市としては、卒業式、入学式、こういった節目の対応ということについて非常に苦慮いたしました。

もちろん安全が最優先ですが、在校生は参加させず、来賓をなくし、式を簡略化して時間を短縮するなど、できる限りの感染拡大防止策を講じ、そうした中でできる形を模索して実施をさせていただきました。

部活動については、今お話いただいたとおりだと私も思いますし、多くの方から、これまで3年間頑張ってきた部活動が中途半端な形でこのまま終わってしまうのは非常に辛い、発表の場が最後にどうしても欲しい、といったご意見が市に寄せられております。

感染拡大防止、安全第一ということがありますが、全国大会、県大会が中止になっているので、それに代わる市としての対応ができないかと、教育委員会に私からもお願いをさせていただきました。

(教育長)

教育委員会としての部活動についての方針についてですが、この6月29日から部活動を再開してまいります。

ただ、当面の間は通常の部活動ではなく、児童生徒の体力を段階的に回復させていくこと、それから、感染防止にも十分考慮をしていくこと等を考えて、時間や内容を制限しながら活動をさせていきたいと思っております。

また、対外試合等が行われず、子どもたちがかわいそうだというお声も非常にたくさんいただいておりますので、私どもとしては、中学3年生を中心として、7月23日の木曜日から26日の日曜日の4連休に近隣の学校との交流試合等を開き、子どもたちが心のけじめ、3年間やってきた活動へのけじめをつける期間としたいと考えています。

なお、1、2年生は8月末まで対外試合等を行わずに、校内での活動のみとしようと考えておりますが、野球等でチームをつくる時に1、2年生も必要だという場合は、特例としてその子たちも加わることとなります。

文化部については、例年、各中学校とも2学期の文化祭が最後の区切りの場になっておりますので、この2学期に学校祭等を開催するなど、何らかの形で発表の場を設けたいと、各学校に連絡をさせていただいておりますので、ご理解いただければと思います。

サポート・援助について

➤ 子どもたちの学習面、メンタル面をどのようにサポートしていく予定

か

➤ 不登校児童に対して行政としての取り組みについて

(教育長)

学習面やメンタルのサポート、不登校児童生徒に対する対応については、ご心配な点が多々あるかと思えます。

このことについては市長も十分にご心配をしてくださっておりますし、私ども教育委員会といたしましても、子どもたちのメンタル面でのフォローをしていかななくてはいけないだろうと考えておりました。

そこで、休校に入って直ちに少年センターの中に相談窓口を設け、教員OB、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを常駐させ、相談体制を整えました。

現在については、学校生活が再開してまだ日も浅く、やはり学習面など学校生活に対して心配や不安な気持ちを抱えている部分も多々あるかと思えます。

まずは教職員が児童生徒一人ひとりに対してふだん以上に声かけを行い、注意深く様子を観察して、表情だとか言動が気になるという児童生徒については複数で確認をした上で、速やかに家庭との連絡を取りながら、学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員などへつなぎ、個別に対応していこうと考えています。

また、特に受験を控えている中学3年生を中心に、臨時休校中の影響による学習内容の定着が不十分な児童生徒に対して、きめ細やかなフォローを行うために、市長とも協議をしながら、学校教育活動を支援する学習指導員を各校1名、計25名配置することといたしているところでございます。

それから、不登校の子どもたちへの取組みでございますが、こちらのほうは、小牧市におきましては、従前から丁寧に対応をしているところでございまして、市内には二つの適応指導教室がございます。

さらに、各学校に子どもたちの状況等を確認し、家庭との相談をしていく不登校児童生徒相談員を配置して巡回相談を繰り返しておりますし、市内25校の学校に今、カウンセラーを配置しながら相談活動ができる体制づくりをしているということで、今の状況は、これまでよりさらに厳しい状況も想定されますので、十分に、先ほどの繰り返しになりますが、丁寧に寄り添ってまいりたいと考えています。

自由質問

- 夏休み短縮期間中の下校時間が一番暑い時間帯になってしまうが、どのような対応をしていくか。また、部活動は行う予定があるか。

(教育長)

今年の夏も本当に暑くて大変だと気象情報も出ておりますので、十分に気をつけていきたいと思っております。

夏休み中の授業については、基本的に短縮日課を進めて、午前中で授業を終わって、給食を食べて、空腹時の状態で猛暑の中を歩くということのないようにということを配慮しながら、一番暑い2時、3時にはならないように努めてまいりたいと考えています。

部活動については、今後の気象条件等を注視しながら、活動内容を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。

市長からお礼のあいさつ

本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。

毎年タウンミーティングやっていますが、オンラインでのタウンミーティングというのは初めてで、今日無事に開催でき、ほっとしております。

皆さんから、率直なご意見をいただきました。まだまだいろいろな不安や疑問、ご意見、ご提言をそれぞれお持ちだろうというように思いますが、限られた時間の中で、皆さんにはご協力をいただきました。

お子さんをお持ちの皆さんにはそれぞれご心配なこともあり、学校や市に対してのご意見なども当然あろうかと思えます。

そうしたことについて、全て皆さんのご希望どおりに解決するということとはなかなか難しい面がありますが、現場の状況等も含めて、先生方や教育委員会ともご相談しながら、できる限り小牧市の子ども達が健やかに成長できるように、小牧市としても最大限の努力をしていきたいと思っております。

今日頂いたご意見については、しっかりと受け止めながら、今後の行政に、そして、学校の現場に活かしていきたいと思っております。

本日、質問できなかったということもあると思っておりますので、もしありましたら、ぜひご意見をお寄せいただければ、最大限対応したいと思っておりますので、よろしく願います。

最後に、本日も協力いただきましたことに心からお礼を申し上げ、また、子どもたちのより良い環境づくりのために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。最後のまとめの挨拶にさせていただきます。